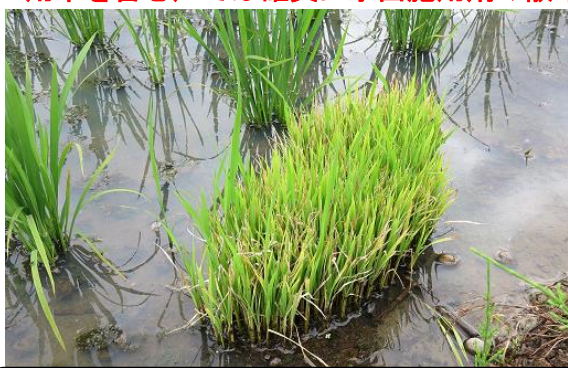
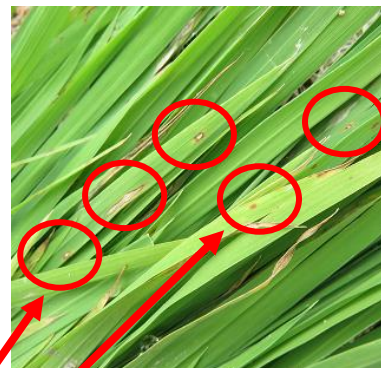


1. 残苗の処分をお願いします…**至急!**

水田内に放置されたままの残苗が各地区で多く見られます。すでに葉いもちに罹病した稲が確認されました。残苗はいもち病の発生原因となり周辺ほ場へ甚大な被害を及ぼしますので、今後も放置したままにせず、至急水田から引き上げて完全に乾燥させるか、土中に踏み込んで埋没させるなど、確実な処分をお願いします。なお、田植え時に苗箱処理剤を使用していない水田、水稻直播栽培（WCS、飼料用米を含む）では確実に水面施用剤の散布で予防措置をお願いします。



田植え後、長期間放置されたままの残苗



葉いもちの病斑（6/17現在）・放っておくと周辺に拡大します

2. 水稻の生育状況

6月21日現在、ひとめぼれの生育は、草丈 36.2 cm（平年比 107.0%）、茎数 322.1 本/m²（平年比 97.5%）、葉齢 7.8 葉（平年差 -0.3 葉）、葉色 40.3（平年差 -0.3）の状態にあります。茎数と葉齢は平年をやや下回るものの、気温が高く推移しているため順調な生育経過です。

5月前半に田植えをした水田では、ほぼ有効茎数が確保されたものと見られ、中干しの時期を迎えました。5月後半に田植えをした水田においても7月上旬には有効茎数を確保できる見込みですので、生育状態をよく確認して適期の中干しを行われるようお願いします。

また、今後の天候が平年並みと仮定した場合、追肥の時期は7月10日頃に迎える見込みです。

追肥用肥料（NK化成肥料等）のご準備をされるとともに、米の安定した収量と品質の確保につながる適期の追肥にお取り組みください。

6月21日現在 水稻の生育状況

品種	田植日	草丈	茎数		葉齢	葉色
			1株当たり	m ² 当り		
ひとめぼれ	5月18日	34.3 cm	13.2 本	215.2 本	7.3 葉	38.5
	5月11日	38.1 cm	23.7 本	429.0 本	8.3 葉	42.0
平均	5月14日	36.2 cm	18.5 本	322.1 本	7.8 葉	40.3
平年比	—	107.0%	94.4%	97.5%	-0.3 葉	-0.3
つや姫	5月22日	34.2 cm	14.2 本	215.8 本	7.1 葉	42.8
	平年比	—	93.9%	79.5%	68.0%	-0.8 葉
東北194号	5月13日	38.2 cm	25.4 本	513.1 本	8.4 葉	42.4
	平年比	—	112.0%	151.6%	160.6%	+0.3 葉
萌えみのり	5月23日	30.1 cm	9.2 本	150.0 本	7.2 葉	41.2
	5月10日	41.7 cm	21.9 本	348.2 本	8.7 葉	43.3
	5月5日	44.8 cm	31.0 本	579.7 本	9.1 葉	43.2
	5月15日	41.6 cm	27.7 本	526.3 本	8.7 葉	40.1
	5月9日	41.9 cm	42.4 本	763.2 本	9.9 葉	44.3
平均	5月12日	40.0 cm	26.4 本	473.5 本	8.7 葉	42.4
平年比	—	104.9%	118.3%	116.4%	+0.1 葉	-0.3

3. 収量・品質の向上のため、適期の追肥(穂肥)を行ないましょう

近年、登熟期の高温経過(猛暑)による土壌窒素の消失や葉色の急激な低下が原因となり、米の収量と品質に影響を及ぼしています。

米の安定した収量と品質を確保するため、適期の追肥を行ないましょう。

なお、一発型肥料を使用している場合においても状況しだいでは追肥が必要となる可能性もありますので、生育経過を観察し追肥をご検討ください。



穂肥窒素の施用時期と生産要因への影響

		生産要因への影響					
		穂数の増加	1穂粒数(穎花数)の増加	1穂粒数(穎花数)の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質の増加
施肥時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂首分化期	○	○		×	××	
	穂揃期				○		×

◎効果高い ○効果あり ×悪影響あり ××悪影響強い

4. 追肥(穂肥)の基本施肥量

追肥は施用時期によって効果が異なりますので、作付け品種や地力窒素発現の特徴などに応じて追肥の時期と施用量を決定します。

環境保全米づくりなどで有機質肥料を追肥に使用する場合は、肥効が現れるまでの時間がかかりますので、幼穂形成期の始期頃よりもやや早めの施肥を行ないましょう。

萌えみのり等の多収品種は窒素成分を多く必要とするので、適量施肥で安定多収栽培につなげます。

堆肥等の有機物を施用している場合においては、草丈が長い(下位節間の伸長)、茎数が多い、葉色が濃いなどの状況があり得ますので、このような場合の追肥は慎重な判断が必要です。

★環境保全米 ⇒ 化学態窒素の上限に注意(栽培期間中の化学態窒素 3.5kg/10a 以内)

品種	穂肥時期	施肥参考(栽培ごよみを参照)	備考
ひとめぼれ つや姫	幼穂形成期	基肥N12%を50kg施肥の場合・・・ 追肥不可 基肥N10%を50kg施肥の場合・・・ 追肥可能 (ただし、現物量で5~6kg程度が限度)	葉色が濃い場合は減数分裂期で行う。または無理しない。
	減数分裂期		
ササニシキ 東北194号	減数分裂期		

★ぽっちゃり米(マニュアル米) ⇒ 窒素成分で1kg/10a

品種	穂肥時期	施肥量(現物)	窒素成分	備考
ひとめぼれ	幼穂形成期	NK化成肥料 6~7kg/10a	1kg/10a	葉色が濃い場合は減数分裂期で
	減数分裂期	NK化成肥料 6~7kg/10a	1kg/10a	葉色が濃い場合は無理しない
ササニシキ	減数分裂期	NK化成肥料 6~7kg/10a	1kg/10a	葉色が濃い場合は無理しない

★多収品種 ⇒ 窒素成分で2kg/10a

品種	穂肥時期	施肥量(現物)	窒素成分	備考
萌えみのり	幼穂形成期	NK化成肥料 12~13kg/10a	2kg/10a	葉色が濃い場合は減数分裂期で・または無理しない
ゆみあずさ	幼穂形成期	NK化成肥料 12~13kg/10a	2kg/10a	葉色が濃い場合は減数分裂期で・または無理しない
つきあかり	幼穂形成期	NK化成肥料 6~7kg/10a	1kg/10a	葉色が濃い場合は減数分裂期で
	減数分裂期	NK化成肥料 6~7kg/10a	1kg/10a	葉色が濃い場合は無理しない

稲作に関するご相談は、最寄りの営農センターにお問い合わせください